

チェルノブイリ通信

発行 チェルノブイリ支援運動・九州事務局
連絡先 北九州市八幡東区春の町1-3-7 日開荘2号
Tel-Fax 093(681)1780

口座番号 01770-1-65328
加入者名 チェルノブイリ支援運動・九州

1997年2月3日

No.
36



チェルノブイリ通信No.36号を お届けします！

1997年が明けてもう一ヶ月以上経ちましたが、皆さんどのような年をお迎えですか？ 12月の総会で、今年度のチェルノブイリ支援運動・九州は、“移動検診車導入による早期診断・治療システムの確立”という、今のベラルーシ共和国の子どもたちにとって最もせっぱ詰まった問題に取り組むことになりました（本文をじっくり読んで下さい）。事務局スタッフ一同、身を引き締めてこの課題に取り組んでいます。どうぞ、皆さん、今年も熱い声援、ご協力をお願いします！！

【今回の内容】

- 移動検診車導入による早期診断・治療システムにご協力を！
〈移動検診車の愛称募集・来日キャンペーンについて〉
- 第7回 総会報告
- 臨時総会について
- 第7次調査団報告
- スタディツアー報告（門間さん2回）
- チェルノブイリカレンダー紹介
- 事務局より

…となっています。

「移動検診車導入」による 早期診断・治療システム

☆今年度の支援テーマです！

ベラルーシでは、甲状腺ガンなどの甲状腺疾患が増えています。特に、若い人達の病気の増加は新たな段階に入り、最も切実な問題となっています。早期発見・適切な治療によって助かる子どもはたくさんいるのに、ベラルーシは経済的にも困窮しているため子ども達は十分な検診や治療を受けていません。早急に検診をし、それを治療に結びつけるシステム作りが即必要です。そのためには、海外からの支援が必要となっています。

チェルノブイリ支援運動・九州で今年度は、この“「移動検診車導入」による早期診断・治療システム”の支援を中心に取り組んでいきます。

・このようなことをやります

単に移動検診車で検診をしていくシステムではありません。移動検診車と末端医療施設（プレスト州ストーリン地区病院）と基幹医療施設（ミンスク

市放射線医学センターなど)、日本側専門家との協力関係をつくり、共同の作業として行ないます。すでに第7次調査団の一行が、保健省、チェルノブイリ非常事態省、検診対象地区となるストーリン地区病院の関係者との会見を行ない、この検診プログラムを進めることで合意しています。このシステムの導入によって病気は早期に診断され、適切な治療や手術を専門病院でスムーズに受けることができるようになります。

・移動検診車とは・・

ハイエースクラスの中古のワゴン車を現地で購入し、その中にエコーやホルモン検査器、顕微鏡などの検査機器や検査試薬・医薬品等を搭載し、チームを組んだ医師達が乗り込み、学校検診や地域検診を行ないます。

若年層(事故当時15歳以下、現在25歳以下)の甲状腺ガンなどの甲状腺異常の適時発見・診断を中心に、体全体の検査を行います。

今後、プレスト州の中でも比較的放射能汚染値が高く、甲状腺ガンが多発しているストーリン地区の地域検診・学校検診を定期的に行なっていくことになります。

・プレスト州ストーリン地区

ストーリン地区病院長ウラジミール

・ミハイロビッチさんに話を聞きました。

『放射能レベルは1平方キロ当たり10キュリー、プレスト州の中では高汚染地区と言える。人口は9万人、その内2万5千人が14歳以下の子どもであり、この子ども達が検診の対象です。』

90年ぐらいから甲状腺ガンの見られるようになり、93年、94年、95年、96年と毎年15人の甲状腺ガンが見つかっています。この10年間で63人がガンの手術をしました。現在17名のガン患者が見つかっていますが、その内9名が15歳以下の子どもで、8名が成人です。今がピークなので、この病院のエコー装置だけでは数が足りません。日本からの検診は大きな意味があります。

これまでの検診について

放射線医学センター内分泌研究所の検診チームが、時々やってきていました。96年の検査では、19名の結節性甲状腺腫が確認されました。この数字は大きい。全体の傾向として、結節性が増えていますが、甲状腺炎、甲状腺機能低下症、昂進症も増加の傾向にあります。

ホルモン検査はできません。ピンスクの子どもの検診センターかミンスクの医学センターで行ないますが、お金がかかります。

今後の問題

検診と健康増進、これらをトータルに考えていかないと、チェルノブイリの問題は解決できません。』

【移動検診プラン】

具体的な実施プランについては3月までには確定します。

実施時期

- 第一回 7月頃予定
- 第二回 10月頃予定

4月に移動検診キャンペーン を行ないます

□期 間

4月18日(土)～5月3日(土)

□コース

九州・山口キャラバン、広島

□内 容

移動検診プロジェクトのベラルー

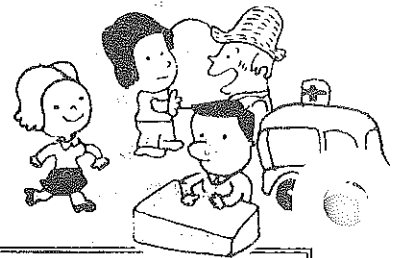
シ側の中心となるラリサ・ダニーロバ教授による医療報告。

通訳は、チェルノブイリ支援運動・九州ミンスクスタッフのナターシヤ・クリモビッチが全行程行なう。

□来日メンバー

- ・ラリサ・ダニーロバさん(放射線医学センター教授、内分泌専門、1956年生)
- ・ナタリア・クリモビッチさん(通訳、ミンスク外国語大学4年生、1976年生)

★講演日程についてはまだ未定です。くわしいことを知りたい方は、チェルノブイリ支援運動・九州事務局までお問い合わせください。



移動検診車の愛称募集！！

移動検診車の愛称を募集します。検診車が親しまれ、たくさんの子どもの検診をすることができるように素敵な名前を付けてやってください。日本語、ロシア語どちらでもかまいません。締切は2月末日。採用者にはベラルーシ民芸品、手工芸品をセットしてプレゼントします。ふるってご応募下さい。

支援運動・九州 第7回総会報告

1996年度（1995年11月
から1996年10月）活動報告

の著書のひとりピクトル・ブイソフ
さんの来日

〔1〕主な活動

1. 「チェルノブイリ風下汚染地のいのちとくらしと魂とのあいを求め る'96 夏スタディツアー」を企画

チェルノブイリ原発事故で被災した子どもたちの作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」の出版や、その作文を書いた子どもたちとの交流などを通して若者たちの間から「ぜひ現地へ行ってみたい」という声があがるようになった。そこで、'96年8月18日～26日にチェルノブイリスタディツアーの企画・実行となった。参加者はスタッフ4名一般参加16名の計20名。内容は、「わたしたち……」に登場するグリシコピッチ村訪問、チェルノブイリ原発見学、伝統文化学習、サナトリウム見学、現地で診療を行っている菅谷先生の話聞くなど盛り沢山のプログラムだった。報告会も北九州市と東京で行われた。また、スタディツアーの報告集も出版予定。

2. ベラルーシ共和国の新聞記者ワレ リー・ブイソフさんと息子の作文集

11月9日～18日に来日。スタディツアー参加者との交流、長崎見学と記念植樹、中津市立小楠小学校との交流会、下関市での報告会、水巻町、玄海町、田川市では報告会と11弦ギター奏者の辻幹男さんのチャリティコンサートを行なった。

3. 第6次調査団を派遣

1996年4月

【メンバー】

中村隆市（支援運動事務局スタッフ）、大友慶次（チェルノブイリグローバルネットワーク代表）、野中彰久（西日本新聞文化部記者）、辻幹男（ギタリスト）

【訪問先】

サナトリウム・九州、クリシェフ、コマロピッチ村、チェチェルスク、ナローブリャ、グリシコピッチ、ミンスク

【主な活動】

スタディツアーの事前調査、ヤコベンコさんとの会談、医薬品の贈呈、チェルノブイリレクイエムコンサート、

4、支援物資

【4月】第6次調査団

- サナトリウム運営費 … サナトリウム・九州
- ビタミン剤 … サナトリウム・九州、ナローブリヤ病院

【8月】スタディツアー

- サナトリウム運営費 … サナトリウム・九州
- 尿検査用紙 … チェチェルスク病院
- ビタミン剤・鉄剤（キャンディータイプ） … サナトリウム・九州、グリシコピッチ診療所
- 抗生物質注射用 … チェチェルスク病院

5、チェルノブイリチャリティーコンサート

「わたしたち……」の本を読んだ10代の若者たちが、96年2月17日（土）小倉市民会館にてチャリティーコンサートを行なう。

6、報告会、原画展・写真パネル展の開催

この一年間で、33カ所に及ぶ地域、会場でチェルノブイリ報告会、原画展・写真展を開催してきました。

7、国際村交流ウィーク、いのちの祭

りバザーに参加

北九州国際交流ウィーク（10月6日）、いのちの祭り（10月27日）に参加。ペラルーシ風料理と民芸品の販売を行なう。

8、感謝状の作成

チェルノブイリ10年という節目の年を記念して、チェルノブイリ同盟と支援運動・九州連名による感謝状を作成し、3500名の方に郵送した。今年4月に残りの約1000人の方に郵送の予定。

[2] チェルノブイリ支援運動・九州の組織の現状

1、事務局体制、活動について

- ①事務局会議をほぼ月1回のペースで定期的開催し、事案の検討、実務を行なう。
- ②事務局体制の変更
有給の事務局員として働いていた大倉さんが都合により7月で辞め、内田さんがその後を引き継いでいます。また通訳の山口英文さんが新たに事務局員となりました。
- ③事務局会議後の「事務局便り」を各窓口、顧問の方々約40名に発送し、状況報告、意見の取捨を行なう。

2. 組織の現状

① 会員数

1937名(10月末現在 昨年度
1786名)

② 通信発行

通信No.32号、1月27日発行

No.33号、5月29日発行

No.34号、9月30日発行

(11月にNo.35号を発行)

[3] 会計報告 別頁

[4] 来期活動の提案(通信35号参照)

[5] 協議事項

■ 早期診断システムの導入については
報告通り

■ これからのサナトリウム構想について

不安定な経済状況と物価の高騰などからサナトリウムの運営が困難な状況になりました。ベラルーシ側の事情により、サナトリウム・九州は10月末で閉鎖となり、サナトリウム運動をどうするか、自前のサナトリウム構想の提案も含め、討論を行ないました。

議論の中では、何のためのサナトリウムか目的をはっきりさせる。地区病院、放射線医学センター、臨床センター等の一室を診断・治療・療養のための場として設け、支援・九州が運

営費をフォローするという方法もある。・こちらから常駐在員を置き、現地の医師や運営者と交流を深め、信頼できる人間関係を築く必要があるのではないか。・サナトリウム・九州を見学したが、運営のあり方や医学的効果等、把握することができなかった、などの意見が出され、日本側とベラルーシ側でサナトリウム・九州の総括を行なった上で、今後の問題を検討しようということになりました。

(こうした課題をもって、1月4日からベラルーシを訪問してきました。以下報告となります)

■ 自前のサナトリウムの可能性について

ミンスク州バラノピッチ市から3キロのところにあるパブリーノバ。元軍の施設(病院)であったが(92年に閉鎖)、軍事施設を民生に移行しようというILO国際プロジェクトにそって、ベラルーシでも大統領令が發布され、軍事施設の民間への無償譲渡が行われている。パブリーノバもその一つで、チェルノブイリの子どもたちのための保養施設、サナトリウムにするのならば無償でもらえるということであった。軍事施設は、すでに国家の手を離れ、その地域の自治体が管理しており、施設を含めた軍人とその家族の面倒まで押しつけられており、持て余しているというのが実情である。従って、バラノピッチ市では、経済的なことを

考えると外国の企業に売りたいという意向を持っていたが、具体的には何も話は進んでおらず、サナトリウム構想については強い関心をもっていた。

今回、パプリーノバについては断念しましたが、私たちが無償で自前のサナトリウムを手に入れることは可能であることが分かりました。また、購入することも何の問題もないことも分かりました。

そこで問題となるのは、私たちが今後もサナトリウムを運営していくのか。もし運営してくとすれば、どういうサナトリウムにしていくのかが問題となります。

【保養について】

今回の旅で出会った多くの人たちが、検診と保養・健康増進という表現を使っていた。このことはベラルーシの社会全体で保養・健康増進の必要性が求められているということではないだろうか。というのも企業や労働組合などが所有していたサナトリウムが資金難のため閉鎖されるという状況であり、保養する場がなくなってきている現状がある。

汚染地に住んでいる子どもたちを精神的にも肉体的にも放射能から解放し、ビタミン豊富な、栄養的にも調和のとれた食事を取ることができる保養施設というのは検診と同じくらい求められていることを実感した。

一方で、病気の子ども達、手術後の

子ども達の保養の必要性も痛感している。

どういうサナトリウムにしていくのか、じっくりと議論をし、新たなサナトリウムの運営のあり方などベラルーシ側との調整を計りながら、進めていく方向で検討したい。

(臨時総会の場で方向性について決めたいと思います)

■ 募金の種類について

新たな運動展開に合わせて募金の種類を整理する必要があります。これまでの募金は、①、サナトリウム運営基金一口・1万円、②、医療援助基金一口・3千円でした。新たな募金の種類、金額については臨時総会で決定します。

「チェルノブイリ支援運動・九州」規約改訂について

12月の総会時に会員より「チェルノブイリ支援運動 規約(案)」が提案されました。内容が現在の組織と運動全般にわたって大幅に変更を求めるもので、その場で提案されても十分な議論ができないことから、日を改めて、今度の臨時総会の場で議論し、決定することになりました。大幅に変わるところを整理し、会員の皆様の意見を求めることになりました。案は、提案者のA案とそれに対するB案で整理して

います。臨時総会に出席できなくても
会員の皆さんも一票を投じることがで
きます。電話では証明するものが残り
ませんのでハガキか手紙、FAXでご
意見または、どちらに賛成かをお寄せ
ください。総会時に一票として数えさ

せていただきます。

(事務局)



チェルノブイリ支援運動・九州 規約改定案

名称の変更について

A案：「チェルノブイリ支援運動・九州」から九州の2文字を取り、「チェルノブイリ支援運動」とする。

理由：東京で活動するのに「九州」という名称には抵抗がある。これからの運動の広がりを見ると「九州」と言う枠を取り外す必要がある。

B案：本会は「チェルノブイリ支援運動・九州」とする。

理由：本会は九州・山口をネットした組織であり、そこに基盤を置いて活動してきた歴史がある。それぞれの県や地域にはすでにチェルノブイリ支援のための組織が存在し、あえて私たちが名称を変更してまで、全国区のネットワークとして活動する必要性が認められない。

会の目的(追加)

A案：提案なし

理由：脱原発に関係なく新しいメンバーが増えてきていること、さらに賛同者を増やしていく意味でも反原発については明記しないほうがいい。

B案：被災者に対する支援を通してお互いの連帯を強めるためにも、再びチェルノブイリの惨禍を繰り返さないための活動を行なう。

理由：本会を作るとき、再びチェルノブイリの惨禍を繰り返さないための運動として取り組んでいくということを確認しています。一言で言えば、脱原発社会を目指していこう、ということであり、そうした思いが支援という文字と運動という文字に込められています。また、事業内容については細かく決めてしまう必要はない。

会員について

A案：本会の会員は次の通りとする。

一正会員 支援運動の目的に賛同して入会し、会費を納入した個人または団体

二募金者 支援運動の目的に賛同したが、会費は納入していないもの

：入会

一本会に募金をし、または会費を納入したものは誰でも入会したものとする。

二会員の資格については一切の制限を行なわない。ただし、期間を一年とする。

：会費

一正会員は、総会の議決により定められた年会費を納入するものとする。

理由：将来、社団法人を目指すなら、会員の種類や資格についてははっきりさせておく必要がある。

B案：本会の会員は次の通りとする

一支援運動の目的に賛同して募金をした個人または団体

：入会

一本会に一定額以上の募金をしたものは誰でも入会したものとする

理由：現在のシステムで「入会の有無と期間は1年」ということは確認されている。最初の通信を送るときにその旨を伝えている。

役員

※ 事務局案を提案しています

A案：本会に次の役員を置く。

一代表 1名

二運営委員 十数名

三監事 2名

※ A案では現在の事務局会議のかわりに運営委員会を提案しています。事務局は単なる事務・日常業務を担当し、意思決定権はないとなっています。総会に次ぐ意思決定機関は運営委員会とし、年4回程度開催する、というのが基本です。これに対し、現在のスタイルにあった形で事務局より事務局案を提案しています。

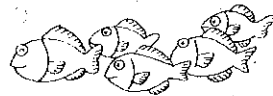
事務局案：本会に次の役員を置く

一代表	1名
二運営委員長	1名
三運営委員	十数名
四事務局長	1名
五事務局員	数名
六顧問	若干名

- ・代表は運営委員の中から選びます。
- ・運営委員会は運営委員長が召集し、今までの事務局会議と同様毎月開催し、総会の権限に属する以外の事項を審議決定します。
- ・日常の会務は、事務局が行なう。事務局長、事務局員は運営委員を兼ねる。事務局のメンバーは、有給事務員と数名で構成する。

役員については以上のような内容で規約改訂案をつくり、事務局提案として臨時総会に提案します。

以上



チェルノブイリ・レポート その2

東京都 門間 直輝（ゴスペルファミリー）

◎チェルノブイリ見学 3日目

その日は8:30に宿舎前に集合して、まず朝食を近くのレストランでとりました。しゅうまいのようなものとパンとチャイを食べました。

最初の話では、今まで乗ってきたバスを原発に行かない人たちが利用する話でしたが、当日になると、原発見学組がリムジンバスを利用することになりました。みんなにしぼしの別れを告

げて、チェルノブイリ4号炉に向けて出発しました。若い女性たちは皆無でした。僕と同年の佐藤進一君がいつしよでした。二人は当然最年少でした。

いよいよ現地に到着するとあちこちに原発らしき建物が見えてきました。バスを降りて4号炉のすぐ近くの、職員たちの管制塔？PR館らしきものに案内されました。不思議とみんな落ち着いているのでした。一匹黒い犬が近寄ってきました。原発の前に野良犬がいるとは…妙に感動を覚えるのでした。

僕自身はなにも体を感じることはありませんから、恐怖と言ってもカウンターの数値で計るしかありませんでした。気のせいか肩がこった気がしました。われながらこんなところまで来てしまってあきれていました。

カウンターは600以上をさしていました。

◎PR館で職員の人に説明を受ける

職員：今でも事故のことは、機械的なミスではなく、人為的なミスだと言われています。

職員：石棺の作業を完了するのに約6ヶ月かかりました。500名が作業に関わった。ソ連だからこそのような大規模な作業が可能だったのです。そして、現在でも6000人が働いています。その中で1500人は原発専門の人間です。

施設の中には、原発の仕組みや4号炉の模型などが展示してあり、なかでも興味深かったのは事故後の4号炉の精密な模型でした。中が見れるようになっていて、蓋のふたが落ちそうになっているのも確認できるようになっていました。監視モニターで厳重に監視していると言うことでした。

◎4号炉

実際に4号炉に降り立ったとき、『ああーここから全ては始まったんだ

…』不思議な吸引力を感じました。広川隆一さんの写真でみたことのある風景でしたので、驚きもしなかったけれど、その巨大な建造物に威圧感を感じていました。

職員の人から『ここでは3分間だけ降りることを許可します。』あわててガイガーカウンターとカメラを持って降り、急いでスイッチを入れます。職員の人に見られるとうるさいので、陰に隠れてはかると1000を超えました。成田が20でしたからざっと50倍でした。『これすごいですよ！ちょっとやばいんじゃないですか？』となりで小峯さんといういっしょにきた40～50の男の人がもつカウンターでは、たしかに…1172あたりが計測されて、ひっきりなしにピーピーと音が鳴っていました。…その後、原発の前で記念撮影？足早にその場を去りました。みんな緊張感と興奮に包まれていました。

◎グルシコピッチ 4日目

いよいよ！この旅の中心的な目的地であるリュウダが住むグルシコピッチに向かいます。思えば『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』の文集作りに参加して、その作者の一人が住んでいる土地に行けるとは夢にも考えていませんでした。ところが今、ベラルーシに自分が実際に来ていて、そして、今まさにリュウダの村に向かっているということを感覚が麻痺しているのかあ

まり実感できていないのでした。

グルシコピッチ到着

車を数時間走らせて、目的地に到着。すでに人だかりができていて、メルクルピッチと同じように伝統的な出迎えを受けました。大きな丸いかばんを抱えて民族衣装に身を包んだ女性が現れて、そのうしろでアコーディオンを片手に演奏してくれます。ここでもパンを受け取るのは若い人のなかからでて歓迎を受けました。その時すぐリュウダの姿が見えて、『リュウダ!!』『リュウダ!!』とみんなそばに駆け寄りました。言葉が通じれば『ひさしぶり! 元気だった? ぼくのこと覚えてる?』とたずねるところですが、あいにく再会の感激を伝える手段が『リュウダ!』と呼びかけるぐらいしかできないのはつらかったです。

僕らが最初に降りた場所は町の公民館らしきところで、なかに案内されました。そして誰がどの家にお世話になるか長い間かかって決めました。その結果、僕だけが一人きりでホームステイに望むことになりました。ほかの人たちはみんな二人以上でホームステイするのになぜかぼくだけそうってしまったのです。しかし、それも運命と受け入れてその後すぐに各自ホームステイ先に向かいました。

ポリースのお家

ぼくがお世話になる方は、《ポリース》というおじさんで歳は50。筋骨隆々としたおじさんでぼくをさっそく自分の家まで案内してくれました。こちらの村の風景というのは、どこの村もなんとなくにいて、まず中央に大型トラックが2台並んで走れるぐらいの道が通っています。そしてその道をはさんでお家が並んでいるのです。そういった家の前にベンチなどが置いてあって、そこによくおばあちゃんやおじいちゃんが座っています。(どこの家にもよく椅子は置いてあった様な気がします。)

10分も歩いた所にポリースのお家はありました。ポリースの家族は、ポリースの妻である《マリーヤ》と長男の《セルゲイ》と次男の《サーシャ》の4人家族。

ポリースの家のダイニングにはごっつい放射能測定器が置いてあり、彼は自分のお腹にそれを向けてスイッチを入れました。メーターが息をふきかえし右にふれます。

彼は、村の中で測定をしたりすることのできる人なのです。そのあと、ぼくは全くほとんどと言っていいほど通じない会話のなかで食事と歓迎をうけて、ウォッカを勧められました。むこうは乾杯すると一気に飲み干さなければならぬようでしたが、ぼくにはアルコール40パーセントを超えるウォッカはきつすぎました。すべて飲み干せないぼくのコップを見てポリースは『そりゃいかん!』といった顔つきを

して、のどで飲むんだといった意味だと思いますが、自分ののどを指さして、一気に飲み干すのでした。しかし、セルゲイとサーシャは残していました。もちろんマリーヤも。それにしても、食卓にのぼっている《きのこのスープ》《じゃが芋》《お肉のからあげ》などなど、すべて食べなさいというのですからまいりました。なんとかすべてに手をつけましたがとてもたべきれませんでした。

食事中にナチスドイツの虐殺についても聞きました。ポリースは身振り手振りで一生懸命に銃を撃つまねなどして、この村にもやってきて虐殺をして、火をつけてまわったことを教えてくれました。

いっしょに食事をして初めて分かりましたが、本当に自給自足です。果物もお肉も野菜もほとんど例外なく自分でとってきたもの。そして、それ以外に食べるものもありません。ですから内部被曝の危険性のある放射能で汚染された食物だからといって、食べないわけにはいかないのです。それを食べるなどということは餓死しなさいといっているようなものだと思います。こんなふうにつつましく暮らしている人たちにとって、チェルノブイリの被害はとてつもなく大きく、太刀打ちできない問題ではないのかもしれない。

◎グルシコピッチ 5日目

セルゲイ家での朝はゆっくりで、ポ

リースが起こしてくれました。朝食を取り、初めて家の庭を案内してもらいました。ポリースの家にはリンゴの木やおどろの木、そしてたくさんの家畜がいます。《鶏、ぶた、やぎ、でっかいさぎ、牛、そして子牛。》子牛はたくさん栄養でふとらせてから売りにだす。または自分の家で食べるんだそうです。また畑には・なす・トマト・かぼちゃ・じゃがいもその他にもいっぱい食物達が畑でいきいきと住んでいるのです。昨日の食卓に出てきたものが勢揃いしているのです。まさに、彼らは【自給自足】です。昨日気がついたことですが、家の中にごみ箱が見当たらないのは不思議でした。そして、台所にはかめの中に水が汲んであるだけでした。上・下水道がないためか水は大切にしているようでした。顔を洗う所でも、玄関の前にあるのですが（つまり外）たらいに水がはっていて、そのたらいの下に管が伸びています。その管に触れると水が触れているときだけ落ちてくるといった感じ。なんといいたらいいか・日本で節水宣言がなくてもこんなに節水することはないでしょう。さらに驚くべきことに彼らはお風呂に入りません。お風呂なんてそんなに水を大量に使うものはないのでしょうか？ とにかくお風呂の習慣はなく、そのかわりに、サウナがある家があるそうです。

畑を散歩しながら見た景色は忘れられないものでした。陽射しが斜めに暖かくそそぎ、遠くのほうまでずーっ

と田園風景です。隣のお家の人も朝から畑仕事をしています。時間がゆっくりとながれ、ついほっとしてきてしまいます。日本の田園風景も大好きですが、ベラルーシの景色も大好きになってしまいました。時間があつたならば水彩でも油絵でも絵を描いていたことでしょう。

森のなかでの昼食

森へ…始めはバスに乗って森の近くまで移動しました。そこでハプニング！

それほど大きくない川ですが、渡ろうとした瞬間！砂の橋でしたのでタイヤが空回りして前に進めません。バスが左へ大きく傾きます！！あわててみんな外へ出て、道ぞいにある石をせっせと運びます。みんなが協力してハプニングを乗り越えようとするとき、それは障害ではなく楽しいひとときになるのだと思います。

車が見事、川を乗り越えたとき思わず「ハラショー！！！」と大拍手。それから、歩いて森の中へ入って行きました。

森を歩いている途中できのこをかごいっぱいにしてかえっていくおばあちゃんやおじさん、青年に出会いました。みんな自分の家で食べる分を必要なだけとってくるのでした。そういえば昨日のスープにもきのこがたくさん入っていました。しかし、どうしても気になるのは放射能です。きのこには多少高い放射能が濃縮されているとききま

す。しかし、彼らに『きのこをとってはいけない！！』などと誰が言えるのでしょうか？ きっと幼い頃からずっと今に至るまで森で木ノ実やきのこを取り、木材を利用して暮らしてきたのです。

《この生活形態はすでに日本から消え去ろうとしているのだと感じます》

グルシコピッチの森はとても優しく美しい森です。木々の切れ間から差し込む木漏れ日は本当に森の美術館を思わせます。きっと人が頻繁に森に入り、みんなで管理しているからでしょう。その中でひょっこり、もりあがったところにきのこは隠れているのです。僕達にはほとんどみつけられませんが、セルゲイやボリースはとんでもないところから次々ときのこを探し当てていました。そんなことに素朴に感動したりしていました。森を歩いているだけで優しい気持ちになれるような気がしました。

食事をする場所にたどりつくところではすでに村の人達がバーベキューの準備をしていました。たてに大きな敷物をしき、そして、所狭しと並ぶ料理の数々。ちゃんとウォッカも用意してありましたが、僕はいい加減自分の限界を知り遠慮しました。高校一年の時ウォッカを3ハイほど飲んだおかげで、体中に発疹が出ていました。さすがにウォッカは避けていたようです。

食事も『かんぱーい』をすっかり村の人達が覚えてくれて、とにかく何でもかんでも『かんぱーい』。あいさ

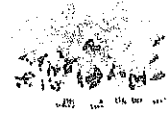
つがわりに『かんぱーい』と連発。そのうちに挨拶がわりになってしまいそうです。音楽の先生とその奥さんが精一杯の歌とボルカを披露してくれました。

村長さんからスタディツアーに指摘がありました。それは、この村にいる期間があまりに短すぎるというもの。短期間ではなく一ヶ月以上暮らしてみないとここでの実際の生活は分からないというものでした。

そして、最後に大友さんが「『災い転じて福となす』ということわざが日本にあります。チェルノブイリは悲しいできごとだったけれど、チェルノブイリを通して、友達になれました。それと同じように仲良くしていきたい。」

そのような意味の言葉を村長さんに言ったら、村長さんは「災いがなくて友達になれるのが一番いい…」そんなことを口にしていたような気がします。僕は、村長さんの気持ちももっともだと思ったし、災いはどこまでいっても災いであり続けるのかもしれない。しかし、気持ちのもちようで前向きになっていけないだろうか…と思ったりもしました。現時点では彼らは悲観的に物事を捉えているように見えたからです。それは村長さんだけに限らず、この村全体から感じられるものでもありました。現実には本当に苦しい状況にあるのだと思います。なにがそんなにつらいのかと言えば、ほとんどなんの対策もなされていないし、なす術がな

いに等しいからではないでしょうか。きっと彼らに必要なことは、少しでもよい方向にむかっているという具体的な実感だと、僕自身は思っています。
(つづく)



事務局より

同封の振替用紙について

*事務作業の都合により今回も全員の方に振込用紙を同封しておりますのでご了承ください。お手数をおかけしてすみませんが、すでに入金された方は廃棄するなり他の方に回すなりしてください。なお、入金の有無や金額についてわからないことがありましたら、事務局までお気軽に問い合わせください。

*裏面に募金の種類を印刷している振込用紙をまだお持ちの方は、今年1月から使用できなくなりましたので、ご注意ください。もし、使用されますと、こちらに届くのが遅れますので、よろしくご協力ください。振込用紙の足りない方は、こちらから送りますので、ご一報ください。



1996年度(1995年11月～1996年10月)チェルノブイリ募金・団体名

医療援助基金		金額 (円)
チェルノブイリとキリスト者九州		2,000
西村萬里フリージア班		3,000
グリーン・コープやまぐち県南		2,000
たんぼぼとりで		4,000
グリーン・コープ生協県北支部		15,000
原子力資料情報室グループ		3,000
ワーカーズ・ポップコーン		30,000
小計1		59,000
サナトリウム運営基金		金額 (円)
グリーン・コープ生協戸畑支部戸畑地区		10,000
ワーカーズ・ポップコーン		40,000
宇宙ステーション12名		10,000
グリーン・コープ緒方班		10,000
ハガキを売る女達		30,000
グリーン・コープやまぐち県南		10,000
熊本YMCA		10,000
グリーン・コープ生協県北支部		30,000
学習サークル・てんとう虫		50,000
宮崎子どもの本に親しむ会		10,000
山崎紀子グループ5名		40,000
小計2		250,000
その他カンパ		
ハガキを売る女達		3,100
都城福音キリスト教会		7,350
八代白百合学園高等学校		30,000
自然といのちを守ネットワーク		20,000
若松区深町小学校		2,000
グリーン・コープおおいた		186,360
日田市立朝日小学校		21,862
中央中学校生徒会		40,000
グリーン・コープ活動センター		1,366
日本キリスト教団京都葵教会		8,000
長崎県職員組合女性部		45,810

松原こひつじ幼稚園	10,000
シーニエ・セルツァ	101,232
小倉東高等学校生徒会	10,000
グリーン・コープ生協さが	35,732
グリーン・コープ八幡西支部リサイクル委員会	9,000
九州女子高等学校ダンス部	100,000
グループむなかた	500,000
グリーン・コープ生協福岡マイン店	13,000
学習サークルてんとう虫	13,000
吉田マリア幼稚園保護者会	4,400
飽の浦幼稚園	50,000
小計 3	1,212,212
合計 イ	1,521,212

物販収益 (有機コーヒー)

G・Cくまもと共生社	420,900	八代女性市民の会	3,500
フェアアソシエーション・鹿児島	119,490	水車村・臼井園	24,000
G・C生協おおいた	372,400	アトム・アクション・広島	13,000
G・C八代	47,400	地球畑	13,000
福岡県教職・母と女教師の会	19,400	吉田マリア幼稚園	9,300
養生伝承館	5,550	ぼこあぼこ	6,500
高知 土と生命を守る会	37,750	グループもも	17,500
くまがい産婦人科	15,000	きち工房	22,000
原発いらん! 下関の会	16,800	筑豊互助会	9,300
澁レディースクリニック	11,700	チェルノブイリ友の会	28,000
県職員互助会・八女	3,000	個人による物販・購入(27名)	155,825
小計	1,069,390	小計	301,925
合計ロ	1,371,315		
合計イ+合計ロ=合計2	2,892,527		

1996年度事務局運営費収入(カタログ・ハウスよりのカンパ等) 支出(事務局維持費、募込代、専従給与)

合計 1	3,338,457	支出 A	3,644,563
------	-----------	------	-----------

6次 調査団派遣費用 (航空運賃、宿泊費等)	379,496
タデイ・ツアー'96派遣費用 (民芸品、手数料等)	91,761
支出 B	489,257

1996年度 支援物資

	第6次調査団	タデイ・ツアー派遣団	合計
サトリウム運営費	2,160,000	5,477,500	7,637,500
医療援助費	53,972	267,986	321,958
英語版 出版費	1,080,000	0	1,080,000
合計 C	3,293,972	5,745,486	9,039,458

* 医療援助・尿検査用紙 ビタミン剤・鉄剤
抗生物質注射用

* サナトリウム運営費・20000ドル 1:108円
50000ドル 1:109.55円

1996年度(1995年11月～1996年10月)個人よりの募金

	G・コープ会員	支援運動会員	合計
医療援助基金	2,712,500	580,000	3,292,500
サ・運営基金	3,314,800	1,169,000	4,483,800
カンパ	326,572	1,546,883	1,873,455
合計 3	6,353,872	3,295,883	9,649,755

収入		支出	
事務局運営費合計 1	3,338,457	事務局運営費 A	3,644,563
団体募金 合計 2	2,892,527	調査、タデイ・ツアー派遣 B	489,257
個人募金 合計 3	9,649,755	支援物資・運営基金 C	9,039,458
前年度繰越金	8,662,032	来年度繰越金	11,369,493
収入合計	24,542,771	支出合計	24,542,771

来期への繰越金 11,369,493円